

体験館「まるごと木育」プロジェクト～木からつながる山・里・暮らし

取組に至る背景・事業の目的

- ふるさと交流木曾では、廃校となった旧黒川小学校の校舎を活用して、木曾の工芸伝統、文化、郷土食、農林業等を都市や地元住民に伝え、交流する事業を行っている。
- 木曾の山に囲まれた木造校舎の環境を活かし、ふるさと体験館の既存メニューの活性化と新たな魅力づくりを行うため、「木」をテーマに3つの事業を実施した。

事業内容

- 「木から感じる里山講座」 3回
 - ・ 周辺の樹木の観察と里山整備を実施。生木を動力機械を使わずにスプーンに加工し、里山の木を身近なものとして体験した。
- 「森のつなぎ手養成講座」 4回
 - ・ 専門家による林業技術の講習により人材育成を図った。
- 「木育遊び場づくりと体験講座」 3回
 - ・ 積み木、木玉コーナーの設置
 - ・ ふるさと体験館の校舎を活用して「木育冒険ごっこ」等の企画を展開した。



【木育冒険ごっこ・射的】

事業効果

- 「木から感じる里山講座」
 - ・ のべ20人が参加。
 - ・ 木曾の里山への愛着を生み、再訪につなげるきっかけとなった。
- 「森のつなぎ手養成講座」
 - ・ 5名が受講。
 - ・ 林業体験指導ができる人材養成を行うことができた。
 - ・ 約2立米の地元材を間伐、製材し、木工体験用として確保できた。
- 「木育遊び場づくりと体験講座」
 - ・ のべ130人が参加。
 - ・ 親子連れを中心に、多くの人に森や木との関わりを印象づけることができた。



【スプーンづくり】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

「木とのつながり」をテーマに体験館の持つ資源や可能性を全て活用することを目指した第一歩として、全てが試行錯誤の取り組みであった。まだまだ基礎固めの段階であるため、今後も足りない部分の整備を進めつつ、今回整備できた道具や遊具、得られたアイデアなどを活かした企画にも取り組んでいく。体験館で「できること」の幅を少しずつ広げていくことで、将来的に木曾への関心を高め、地域の活力へと繋がるような形を作っていきたい。

【選定のポイント】

木のおもちゃの導入により、来場者の滞在時間が延び、木や木曾地域への関心を高める効果が出ている。「木育」を総合的に展開した企画力が先進的で、モデル性が高い。今後の継続的な取組みにつなげることが期待される。

団体名 特定非営利活動法人ふるさと交流木曾 (木曾町)	事業タイプ ソフト・ハード事業
連絡先 電話：0264-27-1011	事業費 1,820,331円
担当：桑村恭彦	支援金額 1,766,000円
ホームページ http://www.taikenkan.jp/	
メールアドレス npo-furusato@taikenkan.jp	